

添付文書用語の解説

Q. 添付文書に書かれている用語の意味を教えてください。

A. 添付文書に記載がある主な用語の解説

【さ行～た行】

- ・白湯（さゆ）
お湯のこと
- ・止瀉薬（ししゃやく）
下痢止めの薬。
- ・瀉下薬（しゃげやく）
下痢、便秘薬。
- ・重篤（じゅうとく）
病状が非常に重いこと
- ・収斂剤（しゅうれんざい）
腸または皮膚を引き締める薬で下痢止めや外用剤に用いる。
- ・心悸亢進（しんきこうしん）
動悸。
- ・腺病質（せんびょうしつ）
幼児期の虚弱で神経質な体質。
- ・前立腺肥大（ぜんりつせんひだい）
男性で、本来ならば壮年期以降に加齢とともに委縮しはじめる前立腺が肥大し、かつ排尿異常をきたす。
- ・総合感冒薬（そうごうかんぼうやく）または、総合かぜ薬（そうごうかぜぐすり）
かぜの様々な症状（発熱、頭痛、悪寒、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、くしゃみ、せき、たん、関節の痛み、筋肉の痛み）の緩和に効果を出すように解熱剤（解熱鎮痛剤）と鎮咳去痰薬・抗ヒスタミン剤などを複合した医薬品。

- ・そうようかん 掻痒感 (そうようかん)

かゆみ。

- ・ちのみちしょう 血の道症 (ちのみちしょう)

出産期、月経期、更年期の女性に見られる頭痛、めまいなどの諸症状。

- ・ちゅうどくせいひょうひえししょう 中毒性表皮壊死症 (ちゅうどくせいひょうひえししょう) (ライエル症候群)

皮膚粘膜眼症候群と同様の重篤な皮膚障害で、ニコルスキー現象 (皮膚面に機械的圧迫を加えると容易に表皮剥離や水疱を生じる現象) を示す。

- ・ちんうんやく 鎮暈薬 (ちんうんやく)

乗り物酔いに用いる薬。

- ・とうつう 疼痛 (とうつう)

ずきんずきんとうづく痛み。

- ・とんぷくようざい 頓服用剤 (とんぷくようざい)

急な痛みの症状が出た時、すぐに服用する薬 (通常1日1回)。